

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2019年11月11日

【四半期会計期間】 第109期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 高周波熱錬株式会社

【英訳名】 Neturen Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 溝口 茂

【本店の所在の場所】 東京都品川区東五反田二丁目17番1号

【電話番号】 03(3443)5441(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理部長 青井 隆明

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区東五反田二丁目17番1号

【電話番号】 03(3443)5441(代表)

【事務連絡者氏名】 管理本部 経理部長 青井 隆明

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第108期 第2四半期 連結累計期間	第109期 第2四半期 連結累計期間	第108期
会計期間		自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高	(百万円)	26,080	24,936	53,015
経常利益	(百万円)	2,268	1,155	4,080
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	1,377	571	950
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	801	188	127
純資産額	(百万円)	66,361	63,798	64,598
総資産額	(百万円)	83,564	77,994	80,650
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	33.60	14.01	23.21
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	71.8	73.7	72.2
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	3,160	4,615	4,622
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	3,682	1,765	5,510
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	907	960	130
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	12,769	13,101	11,286

回次		第108期 第2四半期 連結会計期間	第109期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	13.62	5.62

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含んでおりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の長期化による影響拡大などから、景気の減速感が強まりました。また、世界経済においても米中貿易摩擦に加え、英国のEU離脱問題等の影響による欧州経済の動向など、景気の先行きに一段と不透明感が増しました。

このような状況のもと、当社グループは、第14次中期経営計画「Accomplish V-20」（2018年4月より2021年3月までの3ヵ年計画）に掲げた基本方針である「新技術・新商品・新規事業の迅速な開発と市場投入」、「現在と将来を担うグローバル人材の確保と育成」、「安全・品質・CSR活動のグローバル体制の構築」を推進し、企業価値の向上を図ってまいりました。

しかしながら、当第2四半期連結累計期間においては、自動車業界、建設機械業界、工作機械業界からの受注が減少したことなどにより、売上高は24,936百万円(前年同期比4.4%減)、主として、販売量減少による固定費負担の増加及び各関連製品で展開中の新商品立上げに伴う費用の増加などにより、営業利益は1,054百万円(前年同期比44.3%減)、経常利益は1,155百万円(前年同期比49.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は571百万円(前年同期比58.5%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

第1四半期連結会計期間より、一貫加工であるネツレンブランドの事業効率化とお客様満足度の一層の向上を目的とした組織変更に伴い、「IH事業部関連事業」の中空ラックバー及び建機用旋回輪事業等を「製品事業部関連事業」に変更しております。このため、前年同期の数値を変更後のセグメント区分に組替えた数値で比較しております。

製品事業部関連事業

土木・建築関連製品の売上高は、オリンピック関連を含む大型PJ件数の減少、更に2018年度末から投入を開始した新商品・新工法の採用遅れ等により、前年同期と比較し減少いたしました。

自動車部品関連製品の売上高は、主として中国・欧州では前年同期と比較し減少いたしました。

建設機械部品関連製品の売上高は、客先の中国・東南アジア向けの販売が低下したことなどにより、前年同期と比較し減少いたしました。

工作機械部品関連製品の売上高は、客先需要の低下などにより、前年同期と比較し減少いたしました。

この結果、売上高は13,594百万円(前年同期比4.5%減)、販売量減少による固定費負担の増加及び各関連製品で展開中の新商品立上げに伴う費用の増加などにより、営業利益は237百万円(前年同期比73.7%減)となりました。

IH事業部関連事業

熱処理受託加工関連の売上高は、自動車向けについては、マイルド浸炭事業が堅調に推移したものの、前年同期と比較し減少いたしました。また、工作機械向けについては、客先需要の低下などにより、前年同期と比較し減少いたしました。

誘導加熱装置関連の売上高は、国内や韓国での販売が伸び悩んだことなどにより、前年同期と比較し減少いたしました。

この結果、売上高は11,275百万円(前年同期比4.3%減)、主として減収の影響により、営業利益は781百万円(前年同期比18.8%減)となりました。

その他

当該セグメントは、報告セグメントに含まれない不動産賃貸事業等であります。

当社保有の賃貸物件については、小規模ではありますが安定的に業績に寄与しております。

この結果、売上高は66百万円(前年同期比2.4%増)、営業利益は30百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

財政状態は次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は77,994百万円(前連結会計年度末比3.3%減)となりました。この主な要因は、受取手形及び売掛金が減少したことなどによります。

当第2四半期連結会計期間末における負債は14,196百万円(前連結会計年度末比11.6%減)となりました。この主な要因は、支払手形及び買掛金や電子記録債務が減少したことなどによります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産は63,798百万円(前連結会計年度末比1.2%減)となりました。この主な要因は、その他有価証券評価差額金や為替換算調整勘定が減少したことなどによります。

この結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は73.7%となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、13,101百万円(前連結会計年度末と比べて1,814百万円の増加)となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は4,615百万円(前年同期は3,160百万円の収入)であります。

これは、税金等調整前四半期純利益が1,146百万円あったこと、売上債権が3,404百万円減少したことに加え、仕入債務が1,328百万円減少したことなどによります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は1,765百万円(前年同期は3,682百万円の支出)であります。

これは、有形固定資産の取得による支出が2,107百万円あったことなどによります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は960百万円(前年同期は907百万円の収入)であります。

これは、配当金の支払額が530百万円あったこと、長期借入金の返済による支出が267百万円あったことなどによります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等(会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項)は次のとおりであります。

当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針

当社グループは、熱処理技術を中核とし、常に新商品・新事業の開発を進めることにより、社会の発展に貢献することを企業理念に掲げております。この理念に沿って、株主の皆様から経営についての負託を受けた当社取締役会は、当社の財務及び事業の方針を決定するにあたり、中長期的な視点から経営戦略を立案・実行し、当社グループの競争力・収益力を向上させることにより、企業価値、ひいては、株主共同の利益の向上を目指すことが株主の皆様に対する責務であると考え、これを実行してまいりました。

他方、当社の財務及び事業の方針の決定に関する支配権の交代を意図する者(以下「買収提案者」といいます。)が現われた場合には、そのような者を受け入れるか否かの最終判断は、株主の皆様委ねられるべきものと考えております。しかしながら、株主の皆様が、買収提案者の提案が当社の企業価値を最大限に反映しているものか否かを適切に判断することは必ずしも容易ではありません。特に、当社株式の急激な大量買付け行為が行われ、株主の皆様に必要な情報も時間も与えられない状況下で判断を迫られるような場合には、適切な判断を行うことは極めて困難であることが予想されます。したがって、当社取締役会は、買収提案者の提案について、その提案がなされた時点における株主の皆様が十分な情報を相当な検討期間に基づいた適切な判断(インフォームド・ジャッジメント)を行えるよう、合理的なルールを予め策定し、これによって、株主の皆様が当社の企業価値の最大化された利益を享受できるようにすることが、当社取締役会の責務であると考えております。もとより、このようなルールは、取締役が自己の地位の維持を図るなど、取締役会による恣意的判断の入る余地のない公正で透明性の高いものでなければなりません。

基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取り組み

当社は、買収を行おうとする者が具体的買付け行為を行う前に経るべき手続きを明確かつ具体的に示した「株式の大量買付けに関する適正ルール（「株主意思確認型」買収防衛策）」（以下「適正ルール」といいます。）を2007年11月15日開催の取締役会の決議により導入して以来、更新を重ねながら維持してまいりましたが、その信頼性・法的安定性を一層高めるべく、適正ルールの導入・更新等について株主意思の確認を行う仕組みに変更することとし、2017年6月28日開催の第106回定時株主総会で株主の皆様にご承認いただきました。

適正ルールは、当社取締役会が代替案を含め買収提案を検討するため、必要な情報と相当な期間を確保することにより、株主の皆様が買収提案に関し、インフォームド・ジャッジメント（必要な情報と相当な検討期間に基づいた適切な判断）を行えるようにすることを目的としており、当社の株券等を20%以上取得しようとする者（買収提案者）がいる場合、買収提案者の買収提案が適正ルールに定める要件（必要情報及び検討期間）を満たすときは、その時点における株主の皆様が、対抗措置である新株予約権の発行（無償割当てを含む。以下同じ）の可否に関し、直接判断を下す仕組みを定めております。

適正ルールに基づく新株予約権の発行は、買収提案者が適正ルールに定める手続きを無視した場合、株主の皆様が新株予約権の発行に賛同した場合に限られます。

また、当社は、当社の社外取締役又は社外監査役の中から当社取締役会の決議に基づき選任される3名の者により構成される委員会（適正ルールにおいて「独立委員会」といいます。）を設置しております。独立委員会は、当社取締役会が新株予約権の無償割当てを決議しようとする場合に、当社取締役会の諮問に応じて意見を述べるものとしております。

当社は、当該適正ルールを2017年5月11日付「株式の大量買付けに関する適正ルール（買収防衛策）の変更に関するお知らせ」として公表しております。

上記取り組みについての取締役会の判断

適正ルールは、買収提案がなされた場合に対抗措置（新株予約権の発行）を発動するか否かを株主の皆様に必要な情報と相当な検討期間に基づき判断していただくためのルール及び手続きを定めたものです。

適正ルールは、買収提案を受け入れるか否かの最終的な判断を当社株主の皆様委ねることにより、当社の企業価値及び株主共同の利益の確保・向上を図るものであり、当社の株主の共同の利益を損なうものではなく、また、当社の会社役員員の地位の維持を目的とするものではありません。

以上から、当社取締役会は、適正ルールが上記「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」に沿うものであると判断しております。

適正ルールの有効期間

適正ルールの有効期間は、2017年6月28日から3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとします。当社は、株主総会の際に出席株主の議決権の過半数の賛同を得たうえで、適正ルールの有効期間を3年間更新することができるものとし、その後も同様とします。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、473百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2019年11月11日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	43,790,500	43,790,500	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100 株であります。
計	43,790,500	43,790,500	-	-

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日	-	43,790,500	-	6,418	-	1,535

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2-11-3	3,382	8.29
日本製鉄株式会社	東京都千代田区丸の内2-6-1	3,101	7.60
株式会社三菱UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2-7-1	1,432	3.51
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE NV101 (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3-11-1)	1,174	2.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1-8-11	1,099	2.69
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS - UNITED KINGDOM (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	ONE LINCOLN STREET, BOSTON MA USA 02111 (東京都中央区日本橋3-11-1)	1,056	2.59
知多鋼業株式会社	愛知県春日井市前並町2-12-4	1,029	2.52
株式会社メタルワン	東京都千代田区丸の内2-7-2	976	2.39
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505227 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南2-15-1)	959	2.35
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/JANUS HENDERSON HORIZON FUND (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	33 RUE DE GASPERICH, L-5826 HOWALD-HESPERANGE, LUXEMBOURG (東京都中央区日本橋3-11-1)	950	2.33
計	-	15,162	37.16

(注) 1 上記のほか当社所有の自己株式2,983千株があります。

2 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は次のとおりであります。

日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,382千株
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,099千株

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,983,600	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 40,781,600	407,816	-
単元未満株式	普通株式 25,300	-	-
発行済株式総数	43,790,500	-	-
総株主の議決権	-	407,816	-

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対す る所有株式 数の割合 (%)
(自己保有株式) 高周波熱錬株	東京都品川区東五反田2-17-1	2,983,600	-	2,983,600	6.81
計	-	2,983,600	-	2,983,600	6.81

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、井上監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,506	15,010
受取手形及び売掛金	12,779	10,225
電子記録債権	4,450	3,475
商品及び製品	1,188	1,245
仕掛品	1,795	1,494
原材料及び貯蔵品	2,041	2,106
その他	1,658	1,845
貸倒引当金	29	21
流動資産合計	37,391	35,381
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,602	8,369
機械装置及び運搬具（純額）	10,441	10,252
土地	9,833	9,822
建設仮勘定	956	1,553
その他（純額）	366	371
有形固定資産合計	30,201	30,369
無形固定資産		
借地権	679	659
のれん	1,070	943
その他	146	141
無形固定資産合計	1,896	1,745
投資その他の資産		
投資有価証券	10,343	9,712
長期貸付金	34	33
退職給付に係る資産	76	67
その他	787	766
貸倒引当金	80	80
投資その他の資産合計	11,161	10,498
固定資産合計	43,259	42,613
資産合計	80,650	77,994

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,906	2,482
電子記録債務	4,887	3,952
短期借入金	1,396	1,407
未払法人税等	351	395
賞与引当金	610	647
その他	2,669	2,354
流動負債合計	12,822	11,239
固定負債		
長期借入金	2,159	1,894
退職給付に係る負債	922	905
その他	147	156
固定負債合計	3,229	2,956
負債合計	16,052	14,196
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,418	6,418
資本剰余金	4,724	4,724
利益剰余金	48,529	48,570
自己株式	2,641	2,641
株主資本合計	57,030	57,072
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,177	939
為替換算調整勘定	98	500
退職給付に係る調整累計額	36	31
その他の包括利益累計額合計	1,238	408
非支配株主持分	6,328	6,317
純資産合計	64,598	63,798
負債純資産合計	80,650	77,994

(2) 【四半期連結損益及び包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	26,080	24,936
売上原価	20,268	19,805
売上総利益	5,811	5,131
販売費及び一般管理費	3,916	4,077
営業利益	1,894	1,054
営業外収益		
受取利息	33	54
受取配当金	105	107
持分法による投資利益	97	-
為替差益	43	-
その他	121	119
営業外収益合計	400	281
営業外費用		
支払利息	22	19
持分法による投資損失	-	124
為替差損	-	25
その他	4	10
営業外費用合計	26	180
経常利益	2,268	1,155
特別利益		
固定資産売却益	1	1
受取保険金	3	12
補助金収入	0	5
特別利益合計	4	19
特別損失		
固定資産売却損	0	7
固定資産除却損	18	18
その他	1	1
特別損失合計	20	27
税金等調整前四半期純利益	2,252	1,146
法人税等	606	354
四半期純利益	1,646	792
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,377	571
非支配株主に帰属する四半期純利益	268	220
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	172	240
為替換算調整勘定	783	524
退職給付に係る調整額	30	5
持分法適用会社に対する持分相当額	265	220
その他の包括利益合計	845	980
四半期包括利益	801	188
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	717	258
非支配株主に係る四半期包括利益	83	70

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,252	1,146
減価償却費	1,526	1,536
のれん償却額	64	60
貸倒引当金の増減額(は減少)	3	6
賞与引当金の増減額(は減少)	41	36
退職給付に係る資産の増減額(は増加)	10	4
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	38	9
受取利息及び受取配当金	139	161
支払利息	22	19
為替差損益(は益)	21	43
持分法による投資損益(は益)	97	124
有形固定資産売却損益(は益)	0	6
有形固定資産除却損	18	18
売上債権の増減額(は増加)	656	3,404
たな卸資産の増減額(は増加)	172	126
仕入債務の増減額(は減少)	310	1,328
その他	263	196
小計	3,622	4,824
利息及び配当金の受取額	172	192
利息の支払額	22	23
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	612	377
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,160	4,615
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	2,117	1,148
定期預金の払戻による収入	1,283	1,544
有形固定資産の取得による支出	2,699	2,107
有形固定資産の売却による収入	1	3
投資有価証券の取得による支出	108	8
貸付けによる支出	8	3
貸付金の回収による収入	7	5
その他	40	51
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,682	1,765
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	945	770
短期借入金の返済による支出	1,136	770
長期借入れによる収入	2,073	-
長期借入金の返済による支出	301	267
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	451	530
非支配株主への配当金の支払額	205	141
その他	15	20
財務活動によるキャッシュ・フロー	907	960
現金及び現金同等物に係る換算差額	123	74
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	261	1,814
現金及び現金同等物の期首残高	12,507	11,286
現金及び現金同等物の四半期末残高	12,769	13,101

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形等が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	171百万円	5百万円
電子記録債権	129	-
支払手形	5	-

(四半期連結損益及び包括利益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
運搬費	764百万円	786百万円
給料	737	757
賞与引当金繰入額	187	189
福利厚生費	349	342
退職給付費用	51	36
減価償却費	94	105
技術研究費	388	473

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	14,946百万円	15,010百万円
流動資産 その他	244	198
預入期間が3か月を超える定期預金	2,421	2,107
現金及び現金同等物	12,769	13,101

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月27日 定時株主総会	普通株式	451	11.0	2018年3月31日	2018年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年11月6日 取締役会	普通株式	492	12.0	2018年9月30日	2018年12月10日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月26日 定時株主総会	普通株式	530	13.0	2019年3月31日	2019年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日
後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年11月6日 取締役会	普通株式	530	13.0	2019年9月30日	2019年12月9日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	製品事業部 関連事業	I H事業部 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,227	11,786	26,014	65	26,080
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	82	82	-	82
計	14,227	11,869	26,097	65	26,162
セグメント利益	902	963	1,865	29	1,894

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,865
「その他」の区分の利益	29
セグメント間取引消去	0
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	1,894

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	製品事業部 関連事業	I H事業部 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	13,594	11,275	24,869	66	24,936
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	6	6	-	6
計	13,594	11,281	24,876	66	24,943
セグメント利益	237	781	1,019	30	1,050

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸事業等であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益及び包括利益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,019
「その他」の区分の利益	30
セグメント間取引消去	4
四半期連結損益及び包括利益計算書の営業利益	1,054

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、一貫加工であるネツレンブランドの事業効率化とお客様満足度の一層の向上を目的とした組織変更に伴い、「IH事業部関連事業」の中空ラックバー及び建機用旋回輪事業等を「製品事業部関連事業」に変更しております。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	33円60銭	14円01銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	1,377	571
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	1,377	571
普通株式の期中平均株式数(株)	41,007,312	40,806,881

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

2019年10月に発生した台風19号の影響により、当社の湘南事業所(神奈川県平塚市)で浸水被害が発生いたしました。現在、この台風による被害額については精査中であります。

2 【その他】

2019年11月6日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ)配当金の総額.....530百万円

(ロ)1株当たりの金額.....13円00銭

(ハ)支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2019年12月9日

(注)2019年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月11日

高周波熱錬株式会社
取締役会 御中

井上監査法人

指定社員 公認会計士 萱嶋 秀雄 印
業務執行社員

指定社員 公認会計士 吉松 博幸 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている高周波熱錬株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益及び包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、高周波熱錬株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。